
緋弾と最強の姫

UKAMU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾と最強の姫

【Nコード】

N3384Z

【作者名】

UKAMU

【あらすじ】

神の手違いにより死んでしまった神奈木弥生 神に3つ願いを叶えてやるといわれやよいは1つしか願いを言わなかった・・・そして転生・・・

転生した時間はちょうどキンジがチャリジャックをさせている時だった弥生は2年から転校してきた転入生として入学する。弥生・キンジ・アリアこの三人が出会うとき物語が静かに回りだす。

作者です。これが初めて書くネット小説です。駄文になると思いますがよろしくお願いします。二日に一度ペースで書いていきます。

弾籠めという名のプロローグ（前書き）

UKAMU「初投稿です」

弥生「それだけ？」

UKAMU「うん！」

弾籠めという名のプロローグ

?? 「・・・きろ・・・」

弥生 『うゝん』

?? 「・・・起きろ・・・」

弥生が目を覚まし声のするところを見る

弥生 『あなたは?』

神 「ワシは、神じゃ」

弥生 『そうですか・・・』

神 「驚かんのか?」

弥生 『まあ死んだのは分かってますから・・・』

回想

弥生は^{なぎ}屈大学の2年生であった。

学校の帰りいつもどおりに帰路についていたが・・・

後ろからトラックが突っ込んで出来て当たったと思った瞬間意識が飛んだ

きずいたらここにいた。

回想終了

神「スマンお主はあそこで死ぬハズなかったのじゃ」

弥生『ふえ？どうゆうことですか？』

神「お主はワシの手違いで死んでしまったのじゃ」

弥生『そうですか・・・』

神「怒らんのじゃな」

弥生『だってもう起こってしまったことじゃない仕方ないことよ』

神「そうか・・・ではお主を転生させよう」

弥生『転生？』

神「そうじゃそしてお主が転生する世界は・・・緋弾のアリアの世界じゃ」

弥生『えっ？本当？』

神「うむそして3つ願いを叶えてやろう」

弥生『じゃあRランク並みの戦闘力だけでいいや』

神「それだけでいいのか！」

弥生『うん！』

神「欲のないやつじゃ」

弥生『転生するにはどこに行けばいいの？』

神「その扉をくぐればよい」

弥生「分かったじあね〜神様」

弥生は扉をくぐっていった

神「行ったか・・・よし！あやつの容姿を絶世の美女にしておくか」

弾籠めという名のプロローグ（後書き）

UKAMU「どうでしたか？」

UKAMU「次は、アリアとキンジに会います」

主人公設定（前書き）

UKAMU「主人公設定の巻〜〜〜」

弥生「真面目にやれ〜〜〜」

ガスッ！！

UKAMU「いた！（；；；）」

UKAMU「グリップで叩くことないじゃないか」

弥生「真面目にやらないからです」

主人公設定

名前 かななぎやよい
神奈木弥生

性別 絶世の美女「性別じゃない〜」

身長 130.5（アリアより10センチ位小さい）

体重 作者がどこかともなく狙撃されたため白紙だった

スリーサイズ 作者が後ろからデザートイーグル撃ち抜かれたため
白紙だが血で

バストはDと書かれていた

8

容姿 10人中10人が振り返り男女問わず一目惚れしてしまうほど
可愛い 髪は、腰まで届くロング 色は、少し緑がかかった青

目はほんわかした目で紫水晶色 アメジスト

性格は、明るいいし優しい基本敬語だが怒らせるとめっちゃ怖い 家事・
炊事完璧にできる

備考・武貞高に転入してきたなげかキンジと同じ部屋になる。

神にRランク並みの力を貰ったので片手でデザートイーグルがうつる アサルト
強襲科では後に最強の姫として異名を取る レン・アッシュベル

武器・デザートイーグル2丁・2本の小刀・M700ライフル

主人公設定（後書き）

UKAMU「いや〜〜小説書く事がこんなに疲れるとはおもいませんでしたよ〜〜」

弥生「今更何言ってるの？」

UKAMU「すいません前に書いた小説で次は、アリアとキンジに合つを書く予定だったのに設定を書いてしまいました。

弥生「あちゃ〜〜〜」

UKAMU「次こそは、アリアとキンジに合つを書かせてもらいます

ブローグキンジSIDE（前書き）

UKAMU「はいとうとう原作介入です。」

弥生「もっと頑張れ〜〜〜^^」

UKAMU「え〜〜今回はキンジSIDEで書いていきます。」

弥生「え〜〜〜」

UKAMU「すいません予定を変更して次は武偵憲章を書きます」

プロローグキンジSIDE

くくくキンジSIDE

くく空から女の子が降ってくると思うか？くく

昨日似た映画では降ってきたんだ

まあ、映画とかマンガならいい導入かもな

それは不思議で特別なことが起こるプロローグ

主人公は正義の味方にでもなつて、大冒険が始まる

ああ、だからまずは空から女の子が降ってきてほしい！

・・・なんていうのは、浅はかって言うもんだぜ

だってそんな子、普通なワケがない

普通じゃない世界に連れ込まれ、正義の味方に仕立てられる

現実のそれは危険で、面倒なことに決まっているんだ

だから少なくとも俺、遠山キンジは

空から女の子なんて降ってこなくていい

俺はとにかく普通に、平凡な人生を送りたい

だからまず転校してやるんだ。このトチ狂った学校から……

……ピンポン……

慎ましいドアチャイムの音で目が覚める。

……いけね。どうやら俺は、トランクス一丁でねていたらしい

枕元の携帯を見ると 時刻は、朝の7時

キンジ「こんな朝から誰だよ……」

居留守を使つてやろうか

だが、あのチャイムの慎ましさ(……)にイヤな予感がする。

もそもそ、とワイシャツをはおり制服のズボンをはくと、

俺は1人で住むこの広いこのマンションの部屋を渡り……

ドアの覗き穴から、外を見た

するとそこに……やっぱり

キンジ「……う」

白雪が、立っていた

何やってるんだこんなところで

ガチャ

キンジ「白雪」

白雪「キンちゃん」

キンジ「その呼び方、やめろっていったろ」

白雪「あっ・・・ごめんね」

星伽白雪

キンちゃんという呼び方でわかるように俺とこいつは幼馴染だ

キンジ「とにかく入れ」

白雪「お・・・お邪魔します」

キンジ「で、何しにきたんだよ」

白雪「こ、これ」

和布わふの包を解きそして出てきた漆塗りの重箱を俺わふまえにさし出す

キンジ「これ作るの大変だったんじゃないか？」

白雪「う、ううんちょっと早起きしたただけ」

白雪の作った弁当を食べ腹がいっぱいになったところで

キンジ「えっといつもありがとな」

白雪「えっ、あ、キンちゃんもありがとう」

土下座つぽくなった白雪の胸をつい・・・本当について見てしまった
くっ黒はないだろう！

じわっ

体の芯に血が集まるような、あな、危ない感覚がしてきた
ダメだ！

禁止しているんだ、俺は

こっいつのを自分に

キンジ「……ごちそうさま」

ふう、どうやらセーフだったみたいだな

白雪はソファーに放られていた武偵高の学ランをとってきた

白雪「キンちゃん今日から一緒に2年生だねはい防弾制服」

俺がそれを羽織ると、今度は拳銃も持つてくる

キンジ「……始業式ぐらい、銃は持たなくていいだろう」

白雪「ダメだよキンちゃん、校則なんだから」

校則……『武偵高の生徒は、学内での拳銃と刀剣の携帯を義務づけ
ける』、か

ああ、普通じゃない（……）

ウンザリするほど普通じゃないんだよ武偵高は！

白雪「それにまた『武偵殺し』みたいのが出るかもしれないし……」

キンジ「……『武偵殺し』？」

白雪「ほら、あの連続殺人事件のこと」

キンジ「でもあれは逮捕されただろ？」

白雪「でっ、でもまた模倣犯もほうはんが出るかもしれないし」

キンジ「分かった分かったこれで安心だろ」

俺は、溜息をつき、ナイフもくく兄の形見の、バタフライ・ナイフだくく

棚からだしてポケットに収める

白雪「キンちゃんかつこいい、やっぱり先祖代々の『正義の味方』って感じだよ」

キンジ「やめてくれよ・・・ガキじゃあるまいし」

キンジ「・・・俺はメールチェックしたら行くから、お前は先に行つとけ」

白雪「あつ、じゃあ、そのあいだにお洗濯とかお皿洗いとかくく」

キンジ「いいからっ！」

白雪「・・・はいじゃあ先行ってるね」

・・・ふう

やつとめんどくさいのが帰ってくれたぜ

だらだらとメールを見る

だらだら、だらだら・・・と時刻は7時55分になっていた
しまったちよつとだらだらしすぎたか

〃〃58分のバスには乗り遅れた

〃〃〃生涯

生涯俺はこの7時58分のバスに乗り遅れたことを悔やむだろう

なぜならこのあと、空から女の子が降って来てしまったんだから

かんざき
神崎・H・アリアが……

そして不思議な少女 神奈木弥生と出会ってしまうのだから

ブローグキンジSIDE（後書き）

UKAMU「どうでしょうか」

弥生「全然原作と変わってないじゃない」

UKAMU「まあ、そりゃ〜」

UKAMU・弥生「感想お待ちしております」

武偵憲章（前書き）

UKAMU「とうゆつことで武偵憲章です」

弥生「わ〜〜」

UKAMU「あからさまに棒読みじゃん」

弥生「だっていつになったら本文書き始めるの?」

UKAMU「今週中には」

武偵憲章

1条 仲間を信じ仲間を助けよ。

2条 クライアント 依頼人との契約は絶対に守れ。

3条 強くあれ。但し、その前に正しくあれ

4条 武偵は自立せよ。要請なき手出しは無用のこと。

5条 行動に疾くあれ。先手必勝を旨とすべし。

6条 自ら考え。自ら行動せよ。

7条 悲観論で備え、楽観論で行動せよ。

8条 任務は、その裏の裏まで完遂^{かんすい}すべし。

9条 世界に雄飛^{ゆうひ}せよ。人種・国籍の別なく共闘すべし。

10条 諦めるな。武偵は決して、諦めるな。

武偵憲章（後書き）

UKAMU「今回はなしです」

1 弾（前書き）

UKAMU「はいやつと本文だな〜」

弥生「……………すう」

UKAMU「寝てるし」

UKAMU「じゃあ1弾行きます」

1 弾

「『弥生SIDE』」

弥生「・・・うゝんここは？」

弥生「・・・知らない天井・・・」

（私は・・・そうだ！神様に転生させてもらったんだ）

弥生「ん？机の上に紙が・・・」

神『お主がこれを読んでいるということとは

無事転生出来たのじゃな・・・。さてお主の能力じゃが
Rランク並みにしといたぞいさらに鍛えればRランク以上になれるぞ
後お主の容姿じゃがこちらで絶世の美女にしといたぞ』

弥生「マジですか・・・」

神『では、第二の人生を楽しんでくれ

あと時間軸じゃがチャリジャックの一日まえにしといた』

弥生「ありがとう神様」

神『おおつと忘れとつたお主のぶきじゃがわしからデザートイーグ
ル2丁とM700

と小刀二本を用意した制服と一緒にアタッシュケースにはいつてお
るからな

地下に練習場があるそこで一日練習するといいだろう

ではさらばだ』

神からの手紙は消えた

弥生「ケースは・・・そこか」

アタッシュケースは、ベットの横にあった

弥生「まあ、とりあえず顔洗おっと」

弥生は、2階の寝室から1階の洗面所で顔を洗
自分の姿を見た

弥生「えっ！可愛い・・・」

弥生「っと自分の姿に見惚れている時じゃなかった」

弥生は、2階で武器を持ち地下で一日練習した

ピピピッ　ピピピッ　ピピピッ
カチッ

弥生は目覚ましの音で目が覚めた

弥生「＼（　○　）／フアアア」

弥生「んっ」

背伸びをして布団から出た
そのあと軽く食事をして

M700を背負い、デザートイーグルを太もものホルスターに
小刀を背中ホルスターに（M700以外は、アリアとしまう場所
は一緒です。）

~~~~~

### 第3男子寮前

7時58分発のバスに乗った

周りの学生が『可愛い・・・／＼／』と顔を紅くしながら呟いていた

～～～体育倉庫～～～

弥生「ちょっと早かったかな・・・」

（うっドキドキする～～）

弥生は近くの茂み隠れて原作キャラの到着を待った。

ドン！

弥生「ひゃ！」

いきなり爆弾の音がして思わず変な声を出してしまった。

ドン！ガラガラ・・・

弥生「やっと原作入できる・・・」

弥生は、ドキドキが止まらなかった

ダダダダッ

キンジたちを追って来たセグウェイがUZIをぶっぱなした・・・

~~~~~

セグウェイが7機ともキンジによってバラバラにされ

キンジだちがいいあいをしながら出てきた

キキイー

キンジたちの横からさらに3台のセグウェイがで出来た

(・・・危ない！)

弥生は、茂みから飛び出し一言

弥生「伏せてえ〜〜!!」

弥生はデザートイーグルを抜き放ち

ガウン！ カラン・カラン・カラン

一気に3台のセグウェイをバラバラにした

昨日の練習で身に付けた技『ジェットショット』

（ふう・・・良かったキンジが無事で・・・）

＝＝＝＝キンジSIDE＝＝＝＝

（なんなんだあいつは・・・）

（あんな芸当できる奴この学校にいたか？）

キンジは、一気に3台のセグウェイ壊した芸当をやってみせた
奴の顔を見た

キンジ「可愛い・・・」

弥生「じゃあね～～～～」

キンジ・アリア「ちょ、待って・・・」

キンジ「俺もつと」

俺は、今の際にアリアから逃げる

アリア「待ちなさいよ～～～～」

これが俺、遠山キンジと後に最強の姫と称えられる神奈木弥生と
緋弾のアリアで恐れられる神崎・H・アリアとの

硝煙の二オイにまみれた、最低最悪の、出会いだった。

G
O
F
O
R
T
H
E
N
E
X
T
!
!
!

1弾（後書き）

UKAMU「どうでしょうか」

弥生「すう〜」

UKAMU「まだ寝てるし」

UKAMU・弥生「感想待ってます」

UKAMU「って起きてるし」

弥生「それでは、次は2弾でお会いしましょう」

2 弾（前書き）

UKAMU「更新遅れてすみませんでした。」

弥生「なんでおくれたの？」

UKAMU「パソコンが・・・。」

弥生「・・・。」

UKA・弥「2弾行きます」

2弾

〓〓2 - A 教室前廊下〓〓

――弥生サイドー

あの後弥生は2 - Aの前に来た

『先生が読んだら来て』と言って
教室に入っていた・・・

アリア「・・・・」

（怖！！ものすごい殺気が・・・）

先生「じゃあ入ってきてください」

二人『は〜い』

――キンジサイドー

（俺が鬱々な思いに浸っていると）

先生「去年の3学期と今年に転入してきたカーワイイ子達から自己紹介よ」

先生「じゃあ入ってきてください」

そしてはいってきたのは……

――弥生サイドー

アリア「先生、あたしはアイツの隣に座りたい」

ビシ！とキンジに向かって指をさす

（ふふっ、キンジ君、顔引きつってる）

武藤「よ・・よかったなキンジ！なんかわからんがお前にも春が来たみたいだぞ！先生！俺、転入生さんと席変わりますよ」

弥生「先生、私は空いてるところでいいですよ」

先生「はい」

私は、廊下側の一番後ろに座った

クラスの人「……ワーワー」「……」

（何かめっちゃ騒いでいるけど……）

ガウン！ガウン！

（……！）

アリア「ね、恋愛だなんて……くだらない！

全員覚えていなさい！そういうバカなこと言う奴には・・・
風穴開けるわよ！」

~~~~~

〃理科棟屋上〃

——弥生サイドー——

昼休み

弥生「ここかな？」

キンジ「うわ！」

弥生「あっ！いたいた」

キンジ「なんだよ」

弥生「キンジ君にあっっておこうと思って・・・」

キンジ「なっ／＼なんだよ（かわいいな・・・）」

（あれ？なんかあかくなってる・・・まあいいか）

弥生「HSS」

キンジ「！！！！なっなんで・・・」

弥生「先生の資料を勝手にみたの」

キンジ「おい＃！！」

弥生「あははっ！キンジ君が怒っても怖くない」

キンジ「っ／／／／（かわいいヤバイちょっとヒステリアモードが）  
」

弥生「あっ！もうすぐ鐘が鳴る・・・じゃキンジ君も遅れないように  
ね」

キンジ「おっ、おい」

とてと弥生は、屋上をさる

キンジ「なんなんだよ・・・」

キンジは胸のもやもやが取れなかった

~~~~~

~~~~男子寮~~~~

ーキンジサイドー

キンジ「はあ~~~~~」

（今日はいろいろあったな~~~~でも神奈木さんだっけ

なんで俺のことしってたのかな？

ガチャ！

（あれ？鍵で入れないはずなのに）

？？？「あの〓〓お邪魔します」

そこにたっていたのは・・・

ときは、少し前にさかのぼる

〓〓職員室前廊下〓〓

――弥生サイド――

先生「はい、これが寮の鍵です」

弥生「ありがとうございます。」

弥生「え」と男子寮2001号室・・・」

弥生「えー先生！なんで男子寮なんですか？」

（なんでなんでなんで？？？？）

弥生はすっかり混乱してしまった

先生「なんか勝手に会議で決まっちゃいまして・・・  
でもキンジ君っていう子もいるし」

弥生「は~~~~まあ・・・いいです」

~~~~~

~~男子寮2001号室前~~

——弥生サイドー——

弥生「なんでよりもってキンジ君となの・・・」

（でも、いいかな）

カードを通し

ガチャ

弥生は意を決して入った

弥生「あ~~~~お邪魔します」

キンジ「なっなんで（なんかこればっか言ってるな）」

弥生「今日から一緒に住むことになった神奈木弥生です」

キンジ「はぁぁぁー……？」

弥生「よろしくね キンジ君」

弥生は、そう言いニコッと微笑んだ

キンジ「っ／＼／＼／＼／＼（またなりそうに・・・）」

弥生「キンジ君どうしたの？」

とやり取りしているとき

ピンポーン

弥生「でなくていいの？」 上目使い

キンジ「／＼／＼／＼／」

ピンポンピンポーン

ピポピポピポピポピポピンポーン

キンジ「だあ！うるせえ」

キンジはそう言って玄関のところに行った

数分後

アリアを連れてキンジ戻ってきた

アリア「あら、あなたも同じ部屋なのね」

弥生「そうですよ〜」

アリア「じゃあ弥生・キンジあんたたちあたしの奴隷になりなさい」

GoFoRtHeNeXT!!!

3弾（前書き）

UAKMU「3弾行きましたよう」

3 弾

〓〓2001号室リビング〓〓

――キンジサイドー

（・・・ありえん・・・ありえんだろ！こいつ！）

アリアは、キンジたちの部屋に入り
二人に向かって奴隷宣言したのだ

――弥生サイドー

（ふふっ！キンジ君困惑してる）

キンジ・アリア「つゝ／＼／＼／＼（可愛すぎる）」

弥生「??」

（あれ？なんで紅くなってるんだろ??）

アリア「と、とにかく奴隷になってもらうんだからね！」

アリア「ほら！さっさと飲み物ぐらい出しなさいよ！無礼なやつね
」！」

ぼふ！

盛大にスカートをひらめかせながらアリアは
ソファ―に座った

アリア「コーヒー！エスプレッソ・ルンゴ・ドッピオ！
砂糖はカナ！1分以内！」

弥生「アリア多分ここじゃそんなの無理だよ」

キンジがインスタントコーヒーを出した

アリア「？」

カップに鼻をちかずけてクンクンやった

アリア「これ本当にコーヒー？」

（知らないんだよね）

キンジ「それしかないんだから有難く飲めよ」

アリア「ずず・・・変な味、ギリシャコーヒーに似てる？」

（何かもめ合ってるけどまいいかな　ちょっと武器の手入れしてお
こ）

弥生、武器手入れ中～～

アリア「ででけ！！！！」

(よし！終わった・・・ん？もうそんなところ？)

キンジが出てった後アリアに質問された

アリア「弥生」

弥生「なに？」

アリア「あんたあさのどうやったの？」

弥生「愚問ですね、たまたまですよ」

アリア「・・・まいいわ」

適当にはぐらかしておいた

アリア「お風呂はいつてくるわ」

弥生「ん」

〓〓2001号室浴室〓〓

――アリアサイド――

ちゃばん！

アリア「はあ〜」

（弥生は何を考えているかわからない
でも可愛いなあ〜／／／・・・
とにかくキンジと弥生をあたしのパーティーにいれないと・・・）

〜2001号室リビング〜

ー弥生サイドー

（良かったうまくキンジ君に接触できて・・・）

弥生「神様ありがとう」

弥生は、窓から空を仰いだ・・・

〜男子寮前コンビニ内〜

ーキンジサイドー

キンジ「はあ〜」

（わかんねえなんでアリアと弥生がくるんだ？
でも弥生は鍵もってたしな〜）

弥生といたい自分がいる

（このもやもやどうにかならんかな〜）

~~~~~

――夜中

――弥生サイドー

キンジの声が暗闇の中から聞こえてくる

キンジ「眠れねえ〜」

弥生「ねみれないの？」

キンジ「うわ！弥生かびっくりした」

弥生「たぶんお兄さんのことだね？」

キンジはなんでわかったの？って顔をしていた

弥生「あなたのおにいさんがしたことは間違っていないよ」

弥生は良く通る声で言った

弥生「あれ？」

キンジ「・・・すうすう」

キンジは寝てしまっていた



弥生「ふふっ！かつこいいなあ～～ふあ～眠くなってきた」

弥生はそのままキングジのベッドで寝てしまった

~~~~~

~~~~~翌日放課後

—————神奈木弥生ランク報告書—————

アサルト  
強襲科Rランク 教師のコメント「すごいなでできた全部真ん中で打ち抜いたぞ」

スナイプ  
狙撃科Rランク 教師のコメント「絶対半径4030mだと・・・」

レザート  
諜報科Sランク 教師のコメント「なぜ私の弱点を知っているんだ？」

タギユラ  
尋問科Sランク 教師のコメント「聴取させたやつが廃人になってたでも聴取成功だな」

コネクト  
通信科Sランク 教師のコメント「すごいですね一人で何人ものオペレーションしてる」

インフォルマ  
情報科Sランク教師のコメント「アメリカの国防省にハックして情報とちやてる」

インケスタ  
探偵科 S ランク 教師のコメント「すごいすごすぎるぞ」

レレア  
鑑識科 S ランク 教師のコメント「俺でも見逃した指紋が分かるとは……」

アムト  
装備科 S ランク 教師？のコメント「すごいのだ〜あややは弟子入りしたいのだ〜」

ロジ  
車輛科 S ランク 教師のコメント「武藤と張り合えるやつがこの世にいるとは……」

メディカ アンビュラス  
衛生科・救護科 R ランク  
教師のコメント「たった1時間で400人も直せるとは……」

超能力捜査研究科 (SSR) R ランク  
教師のコメント「適性は電撃だった G は70だった」

特殊捜査研究科 (CVR) R ランク  
教師のコメント「自分の可愛さを生かして完全に落としてしまいましたね」

総合ランク RRR ランク なおこれを隠し神奈木弥生はSランクとして扱う

Go For The NEXT!!!

### 3 弾（後書き）

UAKMU「どうでしょうか」

弥生「チートです」

UKAMU「まあいいでしょう」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3384z/>

---

緋弾と最強の姫

2012年1月12日18時51分発行